

第5章

計画の推進に向けて

1 計画の周知と各種情報の収集・発信

本計画を着実に推進するため、計画に掲げた基本理念や基本目標などが教育関係者や保護者をはじめ町民に幅広く理解されるよう、広報誌やホームページなどを活用することによって、内容の周知に努めます。

また、教育に関する研修や出前講座など、さまざまな機会を捉えて、関係者のみならず、対外的に情報発信するとともに、町民からの意見やニーズを把握し、その施策への反映に努めます。

2 連携・協働による計画の推進

学校・家庭・地域・行政（教育委員会）が一体となって、本計画を推進します。

また、関係機関、各種団体、ボランティア・NPOなど、各分野における多様な主体との協働により、地域社会全体で生涯学習に取り組む環境づくりをすすめます。

（1）学校

学校は、基礎的な学力を定着させ、学力の向上を図るという重要な役割を担います。さらに、体験活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びを通して、社会とつながり、自ら考え、学ぶ意欲や集団生活の中で他者を思いやる心や健やかな体を育みます。

（2）家庭

家庭は、規則正しい生活習慣の定着や規範意識の育成・家庭学習を担います。また、子どもの精神的な支えとなり、思いやりの心や情操を育む場としても重要な役割を担います。

(3) 地域

地域は、子どもたちを見守り、学校や家庭での教育のサポートを行います。例えば、通学における子どもたちの安全の確保や、地域行事の実施などによるふるさとに対する愛着の醸成を担います。

さらに、すべての住民が地域社会の構成員として社会参加できるような機会を確保し、学校支援などの社会課題や地域課題に取り組みます。

(4) 行政（教育委員会）

本計画に掲げられた施策を総合的に推進するため、庁内の関係部署との緊密な連携を図りながら、進捗状況を管理します。また、本計画の推進にかかる適切な事業経費配分にも十分に留意して、実効性のある計画推進に努めます。加えて、学校・家庭・地域の全体をコーディネートし、それぞれが最大限に力を発揮できるように支援します。

3 進捗状況の点検・評価及び計画の見直し

本計画を効果的かつ着実に推進するため、5年後に向けての成果指標にもとづくPDCA（計画・実施・評価・改善）サイクルにより、点検・評価を行いつつ、施策の実行に努めます。また、本計画は策定から5年後を目途に見直しを行います。なお、計画期間の途中であっても、教育を取り巻く新たな課題に対し迅速かつ適切な対応を行うために、成果指標を含めた計画の見直しを行っていきます。

